政務調査報告資料　市議会便り No.18　平成 28 年 4 月発行

千葉市議会議員（中央区選出）

なでしこ力!!

三井みわこ 議会報告

平成28年 第1回定例市議会一般質問

春色のなごやかな季節となりました。市議会議員２期目の三井みわこです。私は、これからも福祉の視点、女性の視点を通して、大人も子どもも、高齢者も障がい者も、そして誰もが「安心して暮らせるまち」づくりを目指します。さて、平成 28 年２月 22 日から３月 17 日にかけて、平成 28 年第１回定例市議会が開催されましたので、ご報告いたします。

防犯街灯約5000灯をLED化 年間約2億円の財政効果

夜間の防犯および歩行者の安全な通行を図るために設置されている防犯街灯を維持管理に要する経費は、自治会等と市双方にとって重いものとなっていました。そこで、電気料金の負担軽減と環境負荷の軽減を図るため、市内の防犯街灯をLED化します。

年間約2億円の財政効果！

		H27.4 当初 年間維持費	LED 交換後 年間維持費	年間 削減額
電気料金	市	3.43 億円	0.89 億円	△2.54 億円
	自治会	0.38 億円	0.30 億円	△0.08 億円
保守管理費	市	0.19 億円	0	△0.19 億円
	自治会	0.05 億円	0	△0.05 億円
リース料金	市	0	0.74 億円	0.74 億円
年間維持費	市	3.62 億円	1.63 億円	△1.99 億円
	自治会	0.43 億円	0.30 億円	△0.13 億円

リース契約で調達します

調達コストを抑制するため、市が一括して10年間のリース契約を行い交換します。

現在の防犯街灯は、自治会等が所有しているため、昨年５月から６月にかけて、自治会等を対象とした説明会を実施し、事業へのご理解をいただきLED化が実現しました。

かがつう株式会社製防犯街灯が設置されます。20VA以下の電力契約で従来の水銀灯１００W相当の明るさになります。

今後のスケジュール

自治会等から提出された既存の防犯街灯の位置図をもとに、現地調査を行ったうえで、各自治会ごとの工事スケジュール等を作成し、工事に取り掛かり、平成28年度末までにすべての自治会等の工事が完了する予定です。

リース期間は平成29年４月から平成39年３月までの10年間ですが、交換工事完了後すぐ点灯します。

平成28年第1回定例会

会派代表質問より

これまで取り組んできた「子ども・高齢者福祉」の施策について、代表質問にて取り上げていただきました。

小児・周産期医療の充実について

Q 海浜病院の小児・周産期医療のさらなる充実については？

A 小児医療では、日本小児科学会の地域小児科センターに位置付けられ、市内の小児二次救急医療の中心的な役割を担っており、今年度は小児科医の増員、小児外科の新設、重症な子どもが入院治療を受けられるハイケアユニットの整備などを行い、診療体制の推進と機能の充実を図っております。

また、周産期医療は、高度な医療を提供できる地域周産期母子医療センターとして、県の保健医療計画に位置付けられています。具体的には、産科は市内の産科救急の中核を担い、早産や低出生体重児が予測される場合などのハイリスク分娩に対する専門的な二次医療を行うとともに、新生児科は千葉市二次医療圏において、24時間365日体制で重篤な新生児の治療を行っております。海浜病院においては、新たな小児医療の提供体制を構築するとともに、引き続き、市内の医療機関と連携し、小児救急やハイリスク分娩の受け入れなど、小児・周産期医療の拠点病院として、安全・安心な医療を提供できるよう、その役割を担って参ります。

民間団体との協働による里親制度推進について

Q 平成27年度の取組状況については？

A 里親制度の推進には、担い手確保と支援体制の充実が重要であることから、民間団体の新たな発想や地域に根差したネットワークを活用するため、NPO法人「ちばこどもおうえんだん」との協働により里親制度を推進して参りました。

里親制度への理解を市民に広めることを目的に、「里親制度推進シンポジウム」を開催し、153名の参加を得たほか、先進市への視察を行い、今後、本市で取組むべき項目を整理したうえで、次年度以降の事業計画を策定することとしています。

Q 取り組みの今後の方向性については？

A 里親の担い手確保に引き続き取組むとともに、里親家庭の求めるニーズを的確に捉え、里親・里子への支援を行うことが極めて重要であると考えています。

里親家庭が求める支援は、里子の年齢や状態等により多岐にわたることから、児童相談所以外にも里子の学習支援や自立支援を行う様々な支援団体を取り込んだネットワークの構築が必要であります。今後は、それらをコーディネートできる団体の育成や的確な支援を提供できる仕組みづくりに取り組んでいきます。

病児・病後児保育について

Q 病児・病後児保育の現状については？

A 里親の現在、中央区及び緑区で各2施設、他の4区で各1施設の、計8施設、定員48人の体制で事業を実施しており、過去3年間の年間総利用者数は、平成24年度4393人、25年度4796人、26年度5048人と増加傾向が続いています。病児・病後児保育につきましては、平成27年度から31年度までを計画期間とする「千葉市こどもプラン」に位置付け、事業を推進していることから、同プランに基づき、量の見込みに対応した事業量を確保するため、実施か所数の拡充を図っていきます。

Q 実施か所数拡充に向けた方策については？

A 利便性の高い総合病院での事業実施を検討するほか、新たな取り組みとして、病児保育室を小児科医院の開業に合わせて開設する場合や、既存の医療機関が新たに開設する場合に、国の補助に上乗せする形で、定員数に応じた市単独の補助を実施します。市単独補助の上限額は、例えば、定員4人の場合は64万5千円、定員が6人の場合は230万1千円となり、定員に応じた形で補助額を増額することにより、事業者の負担軽減を図り、実施か所数の拡充につなげて参りたいと考えています。

まち・ひと・しごと創生について

Q 人口ビジョンに基づく労働力人口・就業人口の推計結果については？

A 人口ビジョンに基づく、労働力人口・就業人口の推計結果については、本市の総人口を、平

成26年3月に行った人口推計に基づく場合と、合計特殊出生率が国の地方創生シナリオと合わせて上昇し、諸施策の投入により社会増が上乗せできるとする『ちばシナリオ』が実現した場合の2パターンを想定し、これに厚生労働省の「雇用政策研究会報告書」で示される、経済成長と労働参加が「進む」ケース、「進まない」ケースの2パターンを掛け合わせ、推計しました。その推計結果によれば、『ちばシナリオ』が実現し、経済成長、労働参加が進んだ場合、2060年の本市総人口は、84万8千人で、労働力人口38万7千人、就業人口37万2千人、労働参加率52・6%となり、一方、26年3月の人口推計と経済成長と労働参加が進まないケースを掛け合わせた場合は、総人口が70万5千人、労働力人口29万4千人、就業人口28万3千人、労働参加率45・5%となり、就業人口では、両者の間に8万9千人の差が生じる結果となりました。

Q 女性の「M字カーブ」解消のための取組みについては？

A 女性の年齢階級別の有業率をグラフ化した際の、いわゆる「M字カーブ」の谷は、本市でも近年、「浅く」なり、台形型に近づきつつあるものの、「谷」部分の年齢階級が高くなる傾向となっており、これは、女性の晩婚・晩産化、あるいは未婚化の傾向、影響が表れているものと考えられるところであります。この解消を目指し、女性の一層の労働参加を進めるため、社会全体で、女性も男性も、「産み」「子育て」しながら働くことのできる環境の整備が促進されるよう、「イクボス」なども含む、ワーク・ライフ・バランスの推進はもとより、各種子育て支援施策の一層の充実、そして、出産・子育て後の再度の労働参加を促進していくことも含む、雇用・就労に繋がるキャリアアップ教育など、総合的に取り組んでいきます。

Q 高齢者の就労促進のための取組みについては？

A 本市では、女性の高齢者層では労働参加に改善が見られるものの、男性の高齢者層での有業率は、経年であまり変化が見られず、これは退職後の雇用について、高齢者雇用の情報流通に関する問題とともに、高齢者と雇用しようとする企業等との間で、雇用条件や職務内容、必要とされる能力等について、「ミスマッチ」の状況が生じている可能性があるものと考えています。千葉県が70歳以上まで働ける企業の割合が、全国第4位と高い状況にある中、「働きたい」と考える高齢者が「働き続ける」ことができ、高齢者の労働参加が一層促進されるよう、シルバー人材センターの活用や、関係機関との連携による再就職支援セミナーの開催等を含め、高齢者雇用に関する情報の充実による就労支援など、具体的な雇用促進に取り組んでいきます。

新清掃工場整備について

Q 現北谷津清掃工場の停止後の対応策と停止時期については？

A 現北谷津清掃工場の停止後の対応策と停止時期についてですが、「焼却ごみ1／3削減」目標の達成を受けて、これまで、2清掃工場により安定的にごみ処理を行うための対応策について検討を行って参りました。

対応策としては、定期修繕の時期や工程を見直して全炉停止期間を短縮するとともに、新港清掃工場の処理量上限を見直すなど清掃工場の運用方法を工夫するほか、可燃ごみ収集車両の増車により収集運搬体制を強化することとしました。

また、剪定枝等のバイオマスの資源化に取り組むとともに、新浜リサイクルセンターから発生する破砕可燃残渣の資源化を進め、焼却ごみ削減をさらに推進することで、安定的なごみの収集・処理ができる目途が立ったところであります。

このため、現北谷津清掃工場については、計画どおり、平成29年3月末に運用を停止することとし、準備を進めていきます。

Q 新清掃工場の整備方針と整備スケジュールについては？

A 千葉市一般廃棄物処理施設基本計画においては、これまでの3清掃工場体制から、3用地2清掃工場運用体制へ移行する方針としており、北谷津清掃工場跡地に整備する新清掃工場については、ガス化溶融方式を採用し、処理規模は1日当り585トンとします。整備スケジュールですが、本市の環境影響評価条例等に基づく手続きを、平成28年度から32年度まで、5年をかけて実施し、建設工事は既存施設の解体を含め、33年度から行い、38年度に本格稼働する計画であります。来年度は、環境影響評価の手続きの内、計画の立案段階における配慮書を作成するとともに、施設の整備・運営手法等を検討するため、PFI導入可能性調査や過去の土地利用状況等を把握するため、土壌履歴調査を行う予定です。引き続き、地元町内自治会のご理解とご協力をいただきつつ、計画的に新清掃工場の整備事業を推進していきます。

指摘要望事項

平成28年第1回定例会 予算審査特別委員長報告

①財政　基金の枯渇や多額の市債残高を抱えるなど依然として厳しい状況にあることから、引き続き、主要債務総額の削減を図るとともに、市税等の徴収対策強化や市有資産の効果的な活用などによる歳入確保と適正な歳出削減に努め、より一層の財政健全化に取り組まれたい。

②職員の人材育成　多様で高度な市民ニーズに対応するための重要な課題であることから、職員ニーズを的確に捉えた研修機会を提供することはもとより、職員が自らのキャリア形成に向けて必要な能力を高め、最大限に発揮できるための体制づくりに意を用いられたい。また、悪性新生物や精神疾患を理由とした休職職員が増加傾向にあることから、早期発見と要因分析に基づく発生予防などにより、職員の心身の健康保持に努められたい。

③市民協働によるまちづくりの推進　住民同士の助け合い・支え合いの新たな基盤となる地域運営委員会の設立の加速化に向け、設立メリットの住民説明や全市展開の手法に意を用いるとともに、ちばレポの本来の導入目的が市民協働による地域課題の解決にあることを踏まえ、コストに見合った成果を得られるよう取組内容を再確認するなど、協働のインセンティブが働く制度の導入を含め、将来を見据えた施策展開を図られたい。

④健康づくり　健やか未来都市ちばプランにおいて方向性が位置づけられている中で、新たな指針の策定に当たっては、健康寿命の延伸や医療費抑制を見据えた明確な目標を定め、市民の健康増進に寄与するよう努めるとともに、スポーツなどを通じて市民の運動習慣の定着を図るための施策の展開を検討されたい。

⑤子どもルーム及び保育施設　指導員・保育士等の不足とそれに伴う保育の質の低下が懸念されることから、処遇改善等の人材確保に資する施策をさらに推進されたい。また、特別教室等を活用した高学年ルームについては、教育委員会と連携し、保育環境の改善を図られたい。

⑥市内経済の振興　事業目的に対する成果指標の設定と効果の検証を行い、効果的な予算執行に努めるとともに、優良な産業用地の確保を図りつつ、産学連携等が可能な地域特性を生かした戦略的な企業誘致、中小企業支援における産業振興財団を通じた効果的な施策展開、商店街の活性化に向けた商工会議所や庁内関係部局との連携による特色のある店づくりの支援や経営者の意識改革など、成果の上がる経済活性化策を推進されたい。

⑦住環境の整備　民間建築物の耐震化やマンション再生に係る支援制度の一層の利用促進を図るとともに、市営住宅の必要な建てかえ・修繕を実施し、住宅の安全・安心の確保に努めるほか、身近な公園についても、将来の維持管理を見据えた上で、利用者ニーズを的確に捉えながら、新設、再整備を行い、快適な居住空間の構築に意を用いられたい。

⑧道路環境の整備　計画的かつ効率的な維持管理や新設改良を推進するとともに、地域住民等からの改善要望に対し、その緊急性等を総合的に勘案した上で適切な対応を図る他、自転車レーン等の整備に際しては、あわせて走行ルールに関する周知啓発を十分に行うことにより、道路の安全性や快適性の向上に努められたい。

⑨両市立病院　病院情報システムの統合に当たり、多額の費用の投入が見込まれている事から、システム改修に要する経費を精査するなど、病院会計への影響に配慮するよう努めるとともに、システム統合を契機として、より一層の業務の改善と効率化に取組み、更なる経営改善を図られたい。

⑩放課後子ども教室　新たに配置される総合コーディネーターを活用して協力者の掘り起こしなどを行い、活動日数の増加と内容の充実を図るとともに、児童が参加しやすい環境を整備して、より魅力的な放課後の居場所となるよう努められたい。

三井みわこ プロフィール

1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
2002年：NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立
2003年：聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
2006年：NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷市長と同期）卒塾
　　千葉県教育戦略ビジョン策定作業部会委員
2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム
　　「ほんだくらぶ」の運営に携わる
2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進 ／ 県民会議　委員
2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員
2011年：千葉市議会議員選挙　初当選
2013年：都市建設委員会副委員長
2015年：千葉市議会議員選挙　２期目当選

E-mail：mm@mitsui-miwako.com
Twitter ID：三井美和香
発行：三井 美和香
TEL：043-216-5432
FAX：043-216-5433
千葉市中央区登戸 1-11-13-203

ご意見ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしくお願いします。

※この市議会便りは、二つ折りにして、保管していただくことが出来ます。